


大項目	Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置		
中項目	1. 自己収入拡大への取組		
事業名	(1) 「新しい生活様式」を踏まえた魅力的な展覧環境の構築及び新たな自己収入の確保		
【年度計画】	・Ⅲ-1-(1)		
担当部課	本部事務局財務課、文化財活用センター	事業責任者	本部事務局長 所昌弘
【実績・成果】	<ul style="list-style-type: none"> 各館において、事前予約制の継続や夜間開館の実施等により混雑緩和・感染症拡大防止に努めた。 東京国立博物館・文化財活用センター・NHKにて共催した特別企画「未来の博物館」においては、最先端のデジタル技術と高精細複製品を用いた新しい鑑賞体験を提供することで、来館者の誘客に努めた。(処理番号1610H参照) 東京国立博物館法隆寺宝物館に、複製グラフィックパネルやデジタルコンテンツを活用した展示「デジタル法隆寺宝物館」を開設した(令和4年度日本博「イノベーション型」プロジェクト)。(処理番号1610H参照) 東京国立博物館で開催した「150年後の国宝展」では、企業から出展協力を得ることで資金調達を行った。東京国立博物館史上初の一般公募を行うなど、一般の方や企業等との連携のもとに開催し、従来とは異なる新しい展覧会を実現した。また、企業とのコラボレーションにおいて、当該企業のファンを新たな来館者として迎えるなど、博物館の認知度向上に努めた。 文化財活用センターと東京国立博物館では、創立150年事業の一環で、「踊る埴輪&見返り美人 修理プロジェクト」を実施し、目標金額1,000万円を大きく上回る、15,396,445円の寄附を得た。(処理番号7130参照) 文化財活用センターと奈良文化財研究所では、クラウドファンディング「ひかり拓本プロジェクト」を10月～12月に実施し、目標金額380万円を大きく上回る653万円の寄附を得た。(処理番号7130参照) 文化財活用センターを中心に、法人全体の外部資金獲得の取組強化を目的としたファンドレイジング勉強会を法人内に立ち上げた。勉強会においては、外部講師を招いての講演や職員同士でのディスカッションを通して、法人全体の外部資金獲得に向けた意識の醸成を図った。本勉強会は5年度以降も継続して実施していく。(処理番号7130参照) 		
【補足事項】	 <p>「踊る埴輪&見返り美人 修理プロジェクト」チラシ</p> <p>「デジタル法隆寺宝物館」チラシ</p>		
【年度計画に対する総合評価】	<p>判定：A</p>	<p>【判定根拠、課題と対応】</p> <p>最先端の技術を駆使した展示や一般公募による展示など、従来の展覧会のかたちにとられない新たな切り口の展覧会を開催することで、新たな来館者の獲得を図った。</p> <p>併せて、クラウドファンディング事業等を実施し、博物館に対する支援者の拡大に努めた。</p> <p>以上により、年度計画を上回る成果をあげたため、A評価とした。</p>	
【中期計画記載事項】	<p>コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開において、展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の最大化に努め、自己収入の確保を図る(略)。</p>		
【中期計画に対する評価】	<p>判定：B</p>	<p>【判定根拠、課題と対応】</p> <p>中期計画の2年目として、新たなファンドレイジング事業を立ち上げるなど、初年度に引き続き、外部資金の獲得に向けた取組みを積極的に行った。</p> <p>5年度以降も継続して取組みを実施し、中期計画の達成に努める。</p>	

大項目	Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置															
中項目	1. 自己収入拡大への取組															
事業名	(2) 展示事業等収入額															
【年度計画】 ・Ⅲ-1-(2)																
担当部課	本部事務局財務課			事業責任者	本部事務局長 所昌弘											
【実績・成果】 4年度の展示事業等収入については、1,725,067千円となり、年度計画予算額を大きく上回った。																
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>年度計画予算額</th> <th colspan="2">4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示事業等収入</td> <td>1,328,911千円</td> <td colspan="2">1,725,067千円</td> </tr> </tbody> </table>										年度計画予算額	4年度		展示事業等収入	1,328,911千円	1,725,067千円	
	年度計画予算額	4年度														
展示事業等収入	1,328,911千円	1,725,067千円														
※受託研究・受託事業を除く。																
【補足事項】																
【関連指標】	4年度実績	目標値	評定	経年 変化	30	元	2	3								
自己収入額 (展示事業等収入)	1,725,067千円 (暫定値)	-	-		1,917,262	2,016,303	828,947	1,042,086								
【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 魅力的な特集展、特別展の企画や広報活動の充実等に取り組んだ結果、入館者やイベント利用、協賛金入金等が増加し、年度計画予算額を大きく上回る収入を得ることができた。															
【中期計画記載事項】 コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた事業展開において、展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の最大化に努め、自己収入の確保を図る(略)。																
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施した結果、入館者やイベント利用、協賛金入金等が増加し、中期計画を順調に遂行できている。															

中項目	1. 自己収入拡大への取組														
事業名	(3) 外部資金の獲得														
【年度計画】															
・Ⅲ-1-(3)-(機構共通)、(文化財活用センター、東京国立博物館)、(文化財活用センター、奈良文化財研究所)															
担当部課	本部事務局財務課 文化財活用センター総務担当			事業責任者	本部事務局長 所昌弘										
【実績・成果】															
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>目標値</td> <td colspan="2">4年度</td> </tr> <tr> <td>寄附金</td> <td>787,529千円</td> <td colspan="2">937,293千円</td> </tr> </table>									目標値	4年度		寄附金	787,529千円	937,293千円	
	目標値	4年度													
寄附金	787,529千円	937,293千円													
(機構共通)															
<ul style="list-style-type: none"> ・機構各施設にウェブ申込による寄附を可能とする「国立文化財機構寄附ポータルサイト」を引き続き運用し、4年度計10,875,000円の寄附を集めた。 ・文化財活用センターと東京国立博物館、奈良文化財研究所の共同で、展示施設等において募金箱を契機とした寄附募集に関する広報発信の強化に取り組んだ。具体的には、奈良文化財研究所においては募金箱や広報用パンフレットの刷新などを、東京国立博物館については既存募金箱の改修を行った。 ・外部資金獲得に向けた取り組みを機構全体で活性化させるため、ファンドレイジング事業実施に関する情報共有等を行うための勉強会(事務局：文化財活用センター)を立ち上げ、第1回として鶴尾雅隆氏(日本ファンドレイジング協会代表理事)による役職員向けの講演会をオンラインで行った。 															
(文化財活用センター、東京国立博物館)															
<ul style="list-style-type: none"> ・文化財活用センターと東京国立博物館の共同で、「埴輪 踊る人々」と「見返り美人図」の修理費等を募る「創立150年記念 踊る埴輪&見返り美人 修理プロジェクト」を4月より開始し、5年3月の終了までに目標金額1,000万円を上回る寄附を集めた。(4年度計 15,396,445円) 															
(文化財活用センター、奈良文化財研究所)															
<ul style="list-style-type: none"> ・文化財活用センターと奈良文化財研究所の共同で、クラウドファンディングサービス「READYFOR」を利用し、石碑の判読を容易にする技術「ひかり拓本」のスマートフォンアプリ開発費などを募る「ひかり拓本プロジェクト」を10月5日～12月2日の日程で行った。第一目標の380万円、第二目標の500万円を大きく上回り、プロジェクト終了までに653万円の寄附を集めた。 															
【補足事項】															
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経年 変化	30	元	2	3							
寄付金等額 (その他寄付金等)	937,293千円 (暫定値)	787,529千円	B		827,718	884,196	730,711	749,596							
【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 ウェブ寄附の増加や賛助会員制度の加入者数の伸びにより、前中期目標期間の実績の年度平均である目標値を上回る寄附を得ることができた。 また、国立文化財機構寄附ポータルサイト等を活用した寄附促進のための情報提供を継続して行い、文化財活用センターと東京国立博物館が共同した収蔵品の修理に対する寄附金募集活動や、文化財活用センターと奈良文化財研究所が共同したスマートフォンアプリ開発等に対する寄附金募集活動では、目標金額を上回る寄附を得るなどの成果をあげた。 以上を勘案し、A評定とした。														
【中期計画記載事項】 (略)賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。 これらの取組により、寄附金等収入については、第5期中期目標期間の累積額が前中期目標期間の累積実績額以上を目指す。(略)競争的資金や寄附金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として運営費交付金等の国費のみに頼らない財務構造へのシフトを目指す。															
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 国立文化財機構寄附ポータルサイト等を活用した寄附促進のための情報提供を行った。また、文化財活用センターと東京国立博物館が共同した収蔵品の修理に対する寄附金募集活動や、文化財活用センターと奈良文化財研究所が共同したスマートフォンアプリ開発等に対する寄附金募集活動を行った。 その結果、3年度比で約187,697千円、寄附金の獲得額を増やすことができた。 また、賛助会員制度の加入者は3年度比で91人増の775人であった。 法人全体で支援者の増加に取り組んでおり、中期計画を順調に遂行できている。														

中項目	1. 自己収入拡大への取組		
事業名	(4) 保有資産の有効利用の推進		
【年度計画】			
・Ⅲ-1-(4) (機構共通) ①、②、③、④			
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長 竹之内勝典
【実績・成果】			
①新型コロナウイルス感染症対策措置を講じつつ、月例講演会や記念講演会、連続講座等を実施した。			
②4年度はコロナ禍ではあるが、新型コロナウイルス感染対策を実施した上で施設の有効利用を促進した。申込の実件数及び利用金額については3年度より増加している。また、4年度は館内休憩スペースへのドラマ等のポスター掲出に加え、ロケ地マップの設置や、当館ウェブサイト上への放映情報の公開等、来館者へ当館の多様な活動の周知を行った。			
③来館者層の拡充と施設の有効利用を目的として、コンサートなどのイベントを実施した。国際交流及び日本文化の紹介を主眼とした「留学生の日」にかかるイベントについては、寄席イベント「トーハク笑楽座」と館内のアジアに関わる樹木を紹介する「樹木ツアー」を実施した。			
④ミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を図った。			
【補足事項】			
②講堂については、4年度は13年ぶりに我が国で「国際公共放送会議」が行われたことに伴い、開会式の会場として施設貸出しを行った。それを一例として、新型コロナウイルス感染症の予防及び対策に配慮の上、比較的規模の大きい貸出し案件についても対応することができた。			
			
「国際公共放送会議」オープニングパフォーマンス			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 コロナ禍ではあるものの、ユニークベニュー、茶室利用は3年度より増加したことで、収入を大幅に増やすことができた。また、当館の取り組みを積極的に広報する場を増やし、多くの来館者へ周知することができた。 引き続き、館内施設をユニークベニュー、ロケ地・婚礼撮影等での利用を促進させ、収入の増加や当館の周知につなげるとともに、当館の多様な取り組みの一つとして、ロケ地マップや当館ウェブサイトにて積極的に広報を行うよう取り組んでいく。		
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用を推進する。(略)			
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 ユニークベニュー、ロケ地・婚礼撮影は引き続き積極的に受け入れていく。その他講堂・茶室等も博物館本来の使用に支障のない範囲で受け入れを進めていく。		

中項目	1. 自己収入拡大への取組		
事業名	(4) 保有資産の有効利用の推進		
【年度計画】			
・Ⅲ-1-(4) (機構共通) ①、②、③、④			
担当部課	総務課	事業責任者	課長 阿部勝
【実績・成果】			
<p>① 展覧会に関する講演会、土曜講座、夏期講座、キャンパスメンバーズ講演会を様々な年齢層に向けて開催した。</p> <p>② 施設(建物、講堂、茶室及び敷地等)の外部貸出(イベント、撮影等)については、WEBサイトでの広報や、会場下見・当日利用時に丁寧な対応を心掛けた結果、口コミによる新規利用者やリピーターを獲得できたことにより、十分な成果を上げることができた。</p> <p>③ 国際交流及び日本文化の紹介を目的とした伝統文化イベント(芸舞妓、茶会等)や、若年層の獲得を目的とした、学生によるクラシックコンサートの開催を行った。特に、国際交流に関しては、留学生が、様々な特典(無料観覧、イベント優先予約等)を受けることができる「留学生の日」を実施した。</p> <p>④ ミュージアムショップ運営について、年間を通して、業者への外部委託を行った。また、特別展期間中においては共催者が運営するショップに対しても施設利用料を徴取し、自己収益獲得と施設の有効利用を行った。</p>			
【補足事項】			
<p>① 講座・講演会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念講演会、土曜講座、夏期講座等については(処理番号 1311B)参照 ・「キャンパスメンバーズ講演会」計2回 平成知新館講堂 参加人数:163人(処理番号 1313B)参照 <p>② 施設の外部への貸出し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイブランドによる展示商談会(明治古都館)、商品カタログ・雑誌取材、結婚式の前撮り等の撮影(明治古都館、平成知新館、庭園、茶室)、茶会の開催(茶室)、コンサートの開催(講堂)にて各施設の貸出を実施した。 <p>③ 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「京都・らくご博物館」計4回 場所:平成知新館講堂 参加者数:266人 ・「留学生の日」 場所:平成知新館 参加者数:78人 ・「夏の一絃琴演奏会」 場所:茶室 参加者数:39人 ・「秋の京博茶会」 場所:茶室 参加者数:120人 ・「芸舞妓 春の舞」 場所:平成知新館講堂 参加者数:280人 ・「八坂神社 祇園獅子舞」 場所:平成知新館講堂 参加者数:259人 ・「春のクラシックコンサート」 場所:平成知新館講堂 参加者数:242人 			
			
夏の一絃琴演奏会		八坂神社 祇園獅子舞	
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評定:B	<p>講座・講演会については、予定通り実施することができた。</p> <p>施設の外部貸出については、現在は閉館中である明治古都館を、ハイブランドによる展示商談会の会場として貸出することができ、十分な自己収入を獲得することができた。その他、撮影に関しても、3年度と同数程度の使用件数を維持することができている。国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等の実施については、定期的に行われ、多くの方に参加いただいた。</p>		
【中期計画記載事項】			
(略)保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用を推進する。(略)			
【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評定:B	<p>中期計画にあるように、本来業務に支障のない範囲で、明治古都館、茶室、敷地等を外部に貸与し、十分な自己収入を獲得することができたので、中期計画を順調に遂行しているということができる。5年度以降についても、さらに利用者を増やすべく、広報及びサービス改善について、積極的に取り組んでいく。</p>		

中項目	1. 自己収入拡大への取組		
事業名	(4) 保有資産の有効利用の推進		
【年度計画】			
・Ⅲ-1-(4) (機構共通) ①、②、③、④			
担当部課	総務課	事業責任者	課長 大西真一
【実績・成果】			
①公開講座、サンデートーク、特別展期間中の特別鑑賞会、トークショー、イベントなど幅広い講座・講演会を実施した。			
②ウェブサイトの施設貸出のページを拡充し、様々な団体や個人等に向けて貸出を行うことで、自己収入の獲得に繋がった。			
③大和ハウス工業主催のコンサート、中国総領事館と共催のコンサートなどを開催し、国際交流や入館者の増加に繋がった。また「留学生の日」に主に留学生を対象としたイベントを開催することで、国際交流と日本文化紹介を図った。			
④地下回廊のミュージアムショップ及びレストランとのテナント契約を継続し、自己収入を確保した。ミュージアムショップ運営元の仏教美術協会とは、評議員会において意見交換をし、よりよい運営や地下回廊の利活用を推進した。			
【補足事項】			
○講座・講演会 特別鑑賞会(11回)、文化財保存修理所特別公開(3回)等			
○イベントの実施			
・講堂：「奈良仏像けんきゅ一部」(4回)、「お水取り講話と現地解説の会」			
・仏教美術資料研究センター：朝ヨガ、「近代化遺産全国一斉公開」での一般公開			
・文化財保存修理所：「文化財保存修理所特別公開」			
・展示室：「仏像供養(年4回)」、「ニコニコ美術館(4回)」			
・庭園・茶室：正倉院展期間中の一般公開			
・地下回廊：「タイル作り」、「蓮糸織り体験」、留学生の日イベント「書画作品に挑戦しよう！」			
○会場提供			
・講堂：中国総領事館との共催によるコンサート、「文化財防火ゼミナール」、落語イベント「らくご男子落語会」			
・仏教美術資料研究センター：ブライダル撮影、音楽コンサート、講演会			
・庭園・茶室：「Daiwa Sakura-Aid」等の音楽コンサート、「珠光茶会」等各種茶会、ブライダル撮影			
・敷地内：「氷室神社秋祭り巡業」、「春日野音楽祭」、テレビ番組撮影、雑誌撮影、ブライダル撮影等			
			
留学生の日イベント「書画作品に挑戦しよう！」		朝ヨガ(大安寺展イベント)	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 特別展ごとに関連イベント、トークショーを開催し、それ以外の期間でも留学生の日イベントや仏像供養など、日本文化を紹介するイベントを積極的に実施することで、来館者の満足度を向上させることができた。また会場提供を積極的に行い、館の魅力発信と自己収入獲得に繋げることができたため、年度計画を着実に実行できたと考えB評価とした。		
【中期計画記載事項】 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用を推進する。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 仏教美術資料研究センターやなら仏像館、庭園など、館の保有する魅力的な施設を貸し出すことによって、館の知名度向上や魅力発信に寄与することができた。また実施するイベントのアンケートでも参加者の評価は高く、来館者の満足度の向上に繋がっている。加えて講堂や仏教美術資料研究センターでの有料施設貸出も増加傾向にあり、中期計画を順調に遂行できている。		

中項目	1. 自己収入拡大への取組		
事業名	(4) 保有資産の有効利用の推進		
【年度計画】			
・Ⅲ-1-(4) (機構共通) ①、②、③、④			
担当部課	交流課 総務課	事業責任者	課長 田中篤 課長 執行正一
【実績・成果】 (機構共通)			
①特別展及び特集展等に関する講演会・講座等を開催した。			
②茶室を外部団体へ貸し出した。			
③エントランスやミュージアムホールにおいて、著名人を招聘した講演会や演奏家によるコンサートを実施し、入館者の拡大及び施設の有効利用を図った。			
【補足事項】			
①展示関連講演会等の開催			
1) 特別展及び文化交流展関連イベント			
・特別展「北斎」 記念講演会「老境の北斎とその画業－浮世絵風景画史の観点から－」(4月16日 参加者：140人)			
・特別展「琉球」 記念講演会「万国津梁の鐘と尚泰久」(7月16日 参加者：95人)			
・特別展「ボンペイ」 記念講演会「ボンペイに魅せられた50年」(10月15日 参加者：203人)			
※上記を含む特別展関連講演会 計 14回開催			
・特集展示「御所の器－公家山科家伝来の古伊万里」 講演会&トークセッション「宮廷文化と御所の器」(10月16日 参加者：83人)			
・特集展示「種子島－風と波が育んだ歴史－」 きゅーはく☆とっておき講座「たねがしま入門」(12月18日 参加者：74人)			
※上記を含む特集展示関連講演会 計 7回			
②外部団体への貸し出し			
・茶室 2回			
・研修室AB 1回(放送大学授業のため)			
③入館者の拡大を目的とした講演会やコンサート等の実施			
・きゅーはく夢ひろば ケッチのフィジカルコメディショー(5月5日 参加者：288人)			
・きゅーはくミュージアムコンサート 沖縄復帰50年記念 特別展「琉球」関連イベント「古謝美佐子 沖縄のこころのうた」(8月27日 参加者：540人)			
・九博能 (9月23日 参加者：270人)			
・みゅーじあむ寄席 (5年2月18日 参加者：268人)			
・桜祭り (5年3月25日)			
・建物外観や虹のトンネルなどを活用し、積極的な撮影協力を働きかけ、認知度の向上に努めた。(2回)			
※その他、「第77期本因坊戦決定戦七番勝負第4局」(6月11・12日 対局場：茶室)、「日米文化教育交流会議(カルコン)」(10月24日 会場：ミュージアムホール、エントランスホール)、「アジア代表2022トークショー」(11月2日 会場：ミュージアムホール)を誘致した。			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策を行いつつ、特別展及び文化交流展の関連講演会やイベントを開催した。さらに入館者の拡大を目的とした講演会やコンサート等も実施した。また、外部団体へ茶室等を貸し出し、施設の有効利用を推進した。以上から年度計画は達成したと評価し、B評定とした。		
【中期計画記載事項】 (略)保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用を推進する。(略)			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度に引き続き、茶室の貸し出しを行った。また、書道や絵画等をエントランスに展示した。また、数々の講演会やコンサート等のイベントをミュージアムホール等で実施するなど、施設の有効利用を推進し、中期計画を順調に遂行している。 今後、茶室以外の貸し出しについて、新型コロナウイルスの感染状況等を見極めながら積極的な利活用を図る。以上の成果より中期計画を順調に遂行しており、B評定とした。		



きゅーはく夢ひろば



九博能

中項目	1. 自己収入拡大への取組		
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進		
【年度計画】 (機構共通) ①講座・講演会等を開催する。 ②建物・講堂・セミナー室等の外部への貸出しを積極的に行う。			
担当部課	研究支援推進部	事業責任者	部長 裏山 晃生
【実績・成果】 ・4年度は国際動物考古学会への貸出しなど、有効に活用した。 ・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを4年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に当研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。			
【補足事項】 ・第56回オープンレクチャー「かたちを見る、かたちを読む」			
			
オープンレクチャーの様子			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 4年度もコロナ感染症対策の影響で施設の外部貸し出しは制限することとなったが、内部での利用頻度が高かったため、利用件数は増加した。なお、外部機関への有償貸付は、今後増やしていくこととした。		
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。			
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期計画期間2年目である4年度も、例年に続き、第56回オープンレクチャーを実施することができた。5年度も同様に、当研究所の保有資産の有効利用を推進する予定である。		

中項目	1. 自己収入拡大への取組		
事業名	(4) 保有資産の有効利用の推進		
【年度計画】			
・Ⅲ-1-(4) (機構共通) ①、②、③、④			
担当部課	研究支援推進部研究支援課	事業責任者	課長 不藤忠義
【実績・成果】			
施設名		4年度	
平城宮跡資料館 講堂	42件	(内 有償貸与 8件)	
平城宮跡資料館 小講堂	62件	(内 有償貸与 6件)	
飛鳥資料館 講堂	0件	(内 有償貸与 0件)	
その他 (収蔵庫等)	11件	(内 有償貸与 6件)	
合計	115件	(内 有償貸与 20件)	
【補足事項】			
3年度実績			
施設名		3年度	
平城宮跡資料館 講堂	30件	(内 有償貸与 2件)	
平城宮跡資料館 小講堂	34件	(内 有償貸与 6件)	
飛鳥資料館 講堂	0件	(内 有償貸与 0件)	
その他 (仮庁舎・収蔵庫等)	9件	(内 有償貸与 5件)	
合計	73件	(内 有償貸与 13件)	
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】	
評価：B		新型コロナウイルスの影響のある中、小講堂の利用件数が大幅に増えた。有償利用件数については、貸与を積極的に実施し、3年度と同じ件数の自己収入の獲得に貢献した。	
【中期計画記載事項】			
(略)保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用を推進する。(略)			
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】	
評価：B		中期計画に基づき、講堂及び小講堂について、快適に利用できるように空調設備・換気設備の改修を行うとともに、ウェブサイトで講堂等の施設ができること積極的に発信し、利用促進を図った。	

【書式A】

施設名 本部事務局

処理番号 7300

中項目	3. 決算情報・セグメント情報の充実等		
事業名	決算情報・セグメント情報の充実等		
【年度計画】 独立行政法人会計基準に従い、引き続き適切な決算情報・セグメント情報の開示を実施する。			
担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	課長 尾崎克洋
【実績・成果】 ・3年度に引き続き、3年度決算（4年度実施）についても、「独立行政法人会計基準」（令和3年9月改訂）に従い、公表情報の充実を図った。 ・3年度財務状況の概要をホームページ上に公開し、機構の財政状態や運営状況に関する情報を政府・国民に対して分かりやすく示した。			
【補足事項】			
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施できた。	
【中期計画記載事項】 財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとめりにあわせて決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおり取組を実施できている。	